

に高めようというものです。

農地を大区画化し、用水路や排水路、農道などもあわせて整備すれば、大型の農業機械が導入可能になります。大面積を大型機械で耕作することにより、農作業の省力化や、労働時間の短縮などが実現できるのです。

この基盤整備工事は昭和53（1978）年から実施され、同時に暗渠（あんきょ）工事も施されました。大区画化した水田では、水稲以外に飼料作物や野菜などの畑作物も栽培できるようにするため、地中にパイプを埋め込み、排水機能を強化しているのです。

生産の効率化と集団営農

農業経営を安定させるには、体



機械化の前は田植えはすべて手作業／写真提供＝鎌形寿夫さん



昭和初期に耕地整理が行われた今上地区／写真提供＝野田市南部土地改良区



第一中学校での農産物展示会／昭和32年11月／写真提供＝鎌形寿夫さん

制の見直しも必要です。昭和40年代からは、特に水田における農業と他産業の間に格差が生じており、他産業並みの労働条件や収入を確保できるよう、農業生産の効率化を図る必要がありました。そこで注目されたのが集団営農方式です。

営農組合などの組織を設立し、

周辺の担い手不足となった遊休農地も借り受けるなど、農用地を集積して生産団地化し、組織的に耕作することで生産効率が上がります。コストダウンも可能になります。

市では、昭和53年から実施された基盤整備事業にあわせ、水田に畑作物を作付していく水田利用再編対策の一環として、集団転作を実施する集落営農組織の立ち上げ

環境に配慮した農業へ

を進めました。麦作を中心に集団営農を実施する営農組織が、昭和57（1982）年以降3団体が設立されています。同時に転作の公平化、地権者に対する地代補償を目的に、互助転作組合が組織されています。

農地は食料の供給だけでなく、自然との深いかわりを私たちに与えてくれるものでもあり、都市化が進む中で重要性は高まっています。

昭和60年代以降、ゆとりある暮らしや自然環境への関心が高まりました。生態系の保全や水害予防など、農地が担ってきた役割も再評価され、それらを維持するため



用水機場の建設工事／大正10年ころ・目吹

にも、農村が活力を取り戻すことが重要だと考えられています。

市では、谷津田や里山といった農村の景観を守り、そこを住みかとする生物との共生にも配慮した、環境保全型の農業を推進しています。

また、全国でもいち早く食の安全・安心に目を向け、農業や化学肥料を極力使わない農産物づくりを積極的に支援、推進しています。

そのほか、都市と農村が接する近郊型農業としての発展を考え、市民と農家の交流促進、生産者の顔が見える農産物直売所の開設など、さまざまな取り組みを進めています。

●参考資料

「野田市の農業」（関東農政局千葉統計情報事務所柏出張所 野田市共編）
「座談会野田を語る・戦後の農業の変遷と農政」（野田市史編さん委員会）
「千葉県野田農業去来史」（千葉県農業改良普及センター）
「農業農村整備のあゆみ」（千葉県農林水産部耕地課土地改良資料館）